

## 王者の星 木星

この頃、日入後から夜半にかけて、南の空には2つの惑星が明るく輝いています。明るい方が、太陽系最大の惑星「木星」、やや暗い方が2番目に大きな惑星「土星」です。

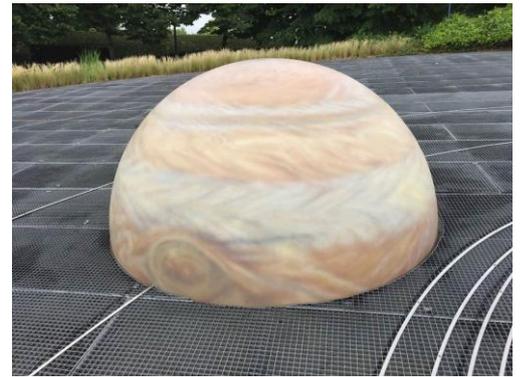
木星は、金星より暗いのですが、その落ち着いた輝き（肉眼では黄金のような輝きに見えます）から、神々の王であるゼウス（Ζεύς）の名前をもらいました。それが、ローマ（イタリア）に伝わるとジョーベ（Giove）となり、英語ではジュピター（Jupiter）と変化しました。みな同じ神様の名前であり、そのまま木星のことを表しています。

英語の Jupiter は名詞ですが、これが所有格（例えば「木星の」という言い方）になると、Jovian となります。ところが接頭語では、Zeno-が頭に付く形式が残っています。ギリシャの言葉が文化とともにイギリスへ伝わってもゼウスの痕跡が残っています。（ゼウス恐るべし。）

木星を初めて天体望遠鏡で見たのは、有名なガリレオで1609年末のこととされています。その日に発見したのが、4つの衛星で、今では「ガリレオ衛星」と呼ばれ、小さな望遠鏡でも、条件が良ければ双眼鏡でも見るすることができます。家庭用のビデオカメラの倍率を最大にすると映ることがあります。

ガリレオは4つの衛星を彼のスポンサーであったメディチ家にちなんで、「メディチ家の星」と名付けました。忬度が働いたのですね。

でも今では、マリウスというドイツの天文学者が名付けた、イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストという固有名が使われています。いずれもゼウスの寵愛を受けた女性（ガニメデだけは男性）の名前です。マリウスはガリレオよりも少し早く衛星を見つけたと言われています。そのため、衛星の発見者をマリウスとしている本もあります。



木星のオブジェ フランスの宇宙科学館にて